

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8125

住 所 東京都中央区銀座2-16-10

氏 名 ヤマト運輸(株)代表取締役 長尾 裕

南関東地域担当 大友 文晴

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	ヤマト運輸株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市幸区鹿島田1-1-2 新川崎三井ビルディング26階		
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	44	道路貨物運送業
主たる事業 の内容	小口貨物運送事業		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		k l
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数		302 台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2020 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第3号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(年度)	
排出量 (t -CO2)	(実) 2,885 (調) 2,885	(実) 2,558 (調) 2,558	(実) 2,481 (調) 2,481	(実) (調)	(実) 2,456 (調) 2,456
削減率		(実) 11.3 % (調) 11.3 %	(実) 14.0 % (調) 14.0 %	(実) % (調) %	(実) 14.9 % (調) 14.9 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位の活動量		原単位等の単位			
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	削減率はドライブレコーダー指導等を行っていましたが1.1%改善結果でした。
第2年度	電気自動車の納車を進めた、適正配置の変更を伴い計画より遅れてしまっています。そのため今期廃車予定台数が予定通り行えなくなっています。
第3年度	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

電気自動車の導入と、廃車計画を進めることで減車することでの排出ガスの軽減を進めて参ります
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンカーキャストと既存SDのダブル集配にならないように体制を整える アンカーキャストへの業務フォロー研修を実施し、作業効率の向上を図り、全体的な運転時間を減らす。 ○運行情報の管理 車載の運転管理システムからの運行評価データのフィードバックによりエコドライブを推進する。特に、バス停集配を徹底させ、発信停止回数と走行距離を減らす集配を実勢する。 ○低公害車の導入 購入車両は、原則トッランナー燃費基準達成自動車等環境性能の優れた車両を導入する
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンカーキャストと既存SDの体制を整えたことにより、作業効率の向上を図れ、全体的な運転時間を減らした。 ○運行情報の管理 車載の運転管理システムからの運行評価を乗務後点呼時に指導したことでエコドライブを推進できた。
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○EC体制の導入での自車両の減車の進めることと、電気自動車の稼働を両立させることで、排出ガス軽減の努力をして参ります。
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
	ございません	

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	○	その他 ()	
EV、PHV、FCV	○	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	ございません
第1年度	ございません
第2年度	ございません
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	次世代を担う子供たちへの環境教育のサポートを目的として、2005年10月から「クロネコヤマト環境教室」を開催しています。 「地球温暖化」をテーマとして、社員が学校に出張して、パネルや副読本を使って「宅急便のしくみ」「地球温暖化とは」「クロネコヤマトの地球温暖化防止策」について楽しく、わかりやすく解説します。座学の後には校庭にてハイブリッド集配車等の低公害車や新スリーター(電動アシスト自転車+リヤカー)などを見学します。 この教室を通して、環境を守ることの大切さ、一人ひとりの行動の大切さを子供たちに実感してもらいたいと考えています。
第1年度	こども安全教室は年間15件実施。今年度は環境教室の依頼がなく0件の実施でした。先方担当者との打合せの中、環境教室は安全教室の一部として開催する事がメインになるなか、時間的都合が合わない結果でした。
第2年度	コロナ完成防止の中、こども安全教室を中止をしてしまっているため取組めていません。
第3年度	

7 基準年度からの温室効果ガスの排出の量等の推移（3号該当者等）

(1) 自動車に係る温室効果ガスの排出量等

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
温室効果ガス排出量	2,885 t-CO ₂	2,558 t-CO ₂	2,481 t-CO ₂	t-CO ₂
車両の台数	332 台	319 台	302 台	台

(2) 車両の内訳

ア 車両の種別

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
普通貨物自動車	317 台	304 台	287 台	台
小型貨物自動車	15 台	15 台	15 台	台
大型バス	台	台	台	台
マイクロバス	台	台	台	台
乗用自動車	台	台	台	台
特種自動車	台	台	台	台

イ 燃料の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	最新年度 の比率
		台数	台数	台数	台数	
次世代自動車	電気自動車	1 台	1 台	台	台	- %
	プラグインハイブリッド自動車	台	台	台	台	- %
	ハイブリッド自動車	70 台	67 台	53 台	台	17.5 %
	燃料電池自動車	台	台	台	台	- %
	天然ガス自動車	台	台	台	台	- %
	その他	台	台	台	台	- %
低燃費車	ガソリン自動車 (上記を除く)	台	台	台	台	- %
	ディーゼル自動車 (上記を除く)	193 台	193 台	179 台	台	59.3 %
	LPGガス車	台	台	台	台	- %
	その他(上記を除く)	台	台	台	台	- %
上記以外		68 台	58 台	70 台	台	23.2 %

※ 低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準（トップランナー基準）を早期達成している自動車をいう。